

11/4 朝日

#### 新型コロナウイルスの第5

# 感染届け漏れ 支援なく自宅死

波ピークだった8月、東京都内の総合病院で感染が確認された50代女性が感染者として数えられないまま亡くなっている。

病院から保健所へ「発生届」が提出されないミスがあり、自宅待機中の女性が病院や保健所に問い合わせた際にもミスに気付けなかった。

経緯が遺族に伝えられたのは亡くなつてから約7週間後で、遺族は「再発の防止を」と訴える。

▼39面II夫後悔

感染症法は、医療機関に対し直ちに発生届を保健所に提出するよう義務づけており、届けを受けた保健所は感染者から電話で病状を聞き取つて治療方針や療養場所を決める。ところが、このケースでは感染情報が保健所に届いていなかつたため女性は「感染者」に含まれず、保健所による健康観察や食料の支援を受けられなかつた。病院は届け出が漏れた理由を「感染拡大による業務の逼迫」と説明。厚生労働省の担当者は「うた見落としは「聞いた」とが

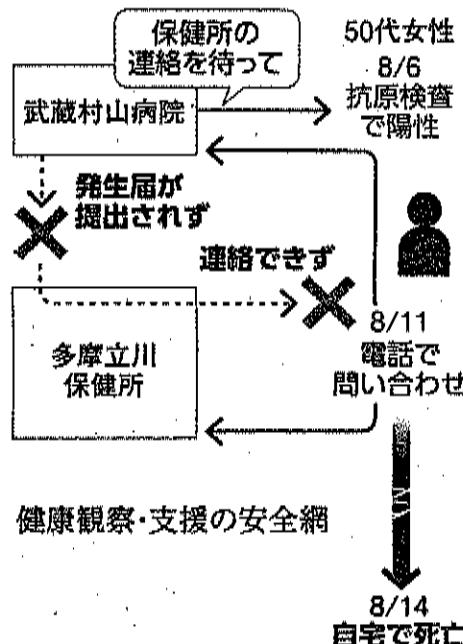
ない」と話した。

武藏村山市の武藏村山病院や遺族によると、女性は8月6日、同病院を訪れ、抗原検査で陽性反応が出た。病院はこの日、女性を含め11人の感染をファックスで届け出るはずだけ送つていなかつた。

女性は保健所からの連絡を待つよう病院に指示され、家族とともに自宅待機を開始。同11日には「保健所から連絡がない」と病院に電話で問い合わせていた。病院は東京都多摩立川保健所（立川市）の電話番号を女性に伝えたが、届けを出していないことには気付かなかつたという。女性の携帯電話には同じ日に保健所と約10分間通話した履歴があつたが、保健所側には記録が残つていなかつた。

女性は3日後、自宅で亡くなつているのが見つかった。病院は死亡を受けた警察から連絡でミスに気付き、保健所に届け出た。発生届が未提出だったことについて、病院と保健所が遺族に説明したのは10月初旬だつた。武藏村山病院の鹿取正道院長は13日、朝日新聞の取材に「痛恨の極み。ご家族に深くおわび申し上げます」と述べた。保健所は女性からの問い合わせについて「事務職員が一般的な相談として受け止め、（医師や看護師ら）医療職につながなかつたと考えられる」と取材に説明した。（若田恵実、小林太一）

## 自宅待機中の女性が亡くなった経緯



## 第5波 保健所へ病院ファックス送らず